

令和元（2019）年度 IAMASの活動と運営報告





情報科学芸術大学院大学

Institute of Advanced Media Arts and Sciences

— 目次 —

組織の概要	3
活動の概要	10
運営の概要	27

IAMAS の目的

情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] は、科学的知性と芸術的感性の融合を目指した学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、未来社会の新しいあり方を創造的に開拓する「高度な表現者」を養成するとともに、学術文化の向上及び地域の振興に寄与することを目的に、岐阜県が2001年に開学した大学院大学です。

- 沿革

1996 岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー (IAMAS) を設立

2001 情報科学芸術大学院大学を開設
メディア表現研究科 (修士課程) を設置
大学附属研究機関メディア文化センター (CMC) を設置
大学附属図書館を設置

2005 リンツ美術工芸大学と交換留学生協定

2010 メディア文化センター (CMC) を産業文化研究センター (RCIC) に改名

2012 岐阜県行政改革アクションプランにより国際情報科学芸術アカデミーを廃止

2014 ソフトピアジャパン地区へ、全学移転



平瀬ミキさん (2019年修了) 《Translucent Objects》 (新人作家公募展「AFAF Awards 2019」入選)

教 育 目 標

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、新しい文化を創造する高度な表現力を授け、現代社会の諸問題に応答できる人の育成を教育目標として掲げています。

- 学位授与方針（ディプロマポリシー）

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、科学技術と哲学・思想的視野をともなう新しい文化を創造する高度な表現者の育成を目標とし、その目標のために編成されたカリキュラムにおいて、所定の単位を取得することに加え、論文審査あるいは作品・論文審査、及び最終試験を合格した学生に修了を認定し、学位を授与します。

その際、以下の点が問われます。

- 専門性を有した自立したアーティスト・デザイナー・エンジニア・研究者・教育者として、必要な能力を身につけたか。
- 高い倫理性と強い責任感を意識し、未来の人間の生き方、幸福を追求しながら、研究が現代社会の諸問題に対する応答として成果を得ることができたか。
- 研究領域によらず様々な分野を専門とする人々とも互いに積極的に関わりあい、その交流の中から生み出される「新しい知」のあり方を身につけたか。

- 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、新しい文化を創造する高度な表現力修得を目指し、体系的に専門性を獲得するための実践的かつ領域横断的な科目を配置し、講義、演習、実習等を適切に組合せた高度な授業を開講するとともに優れた研究指導を行います。

- 高度な表現者としての素養を身に付けるとともに、社会の多様な要請に対応した幅広い知識と実践力を修得するため、プロジェクト科目および特別研究科目を設置する。
- 自らを批評し研究成果の社会的意義を問うための総合科目を設置する。
- 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために専門科目および制作演習科目を設置する。
- 問題発見力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力など、研究において必須となる汎用的な能力を育成するため導入科目を設置する。

- 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

多様な背景を持った学生により高度な学習機会を与えるために、積極的な情報発信を行い、面接を主体とした多様な入学者選抜を実施しています。その際、以下のような学生の入学を想定しています。

- 自らの専門領域を活かし、他分野と横断的な探求をする。
- 情報社会の新しいあり方を創造的に開拓する。
- 人や社会との新しい関係性を考え、次世代の産業を創出する。
- 様々な形態の芸術表現から新しい文化を創造する。
- 情報やコミュニケーションに新たな形を与え、地域社会に提案する心豊かな社会の実現をめざす。

全ての大学等において、以下の三つの方針を一貫性あるものとして策定し、公表するものとする。

①修了認定・学位授与の方針、②教育課程編成・実施の方針、③入学者受け入れの方針

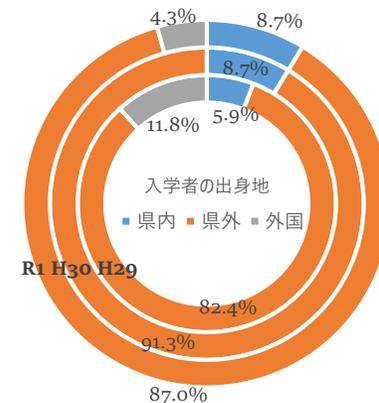
（学校教育法施行規則一部改正平成28年3月31日改正、平成29年4月1日施行）

学生

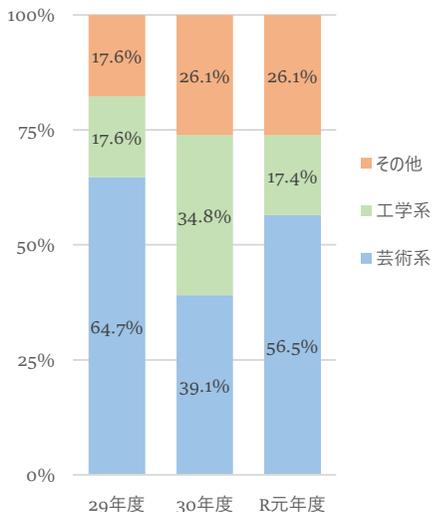
- 主に芸術、情報、工学、社会科学の出身者に加え、最近では、経済、法律、文学など、より分野の多様化がすすんでいます。
- 常に社会人経験者が3~4割を占め、教員経験者も1割程度となっています。
- ダブルマスター入学者も徐々に増加しています。
- 比較的安定した出願者数（平均倍率1.6）となっており、全国大学院進学率（H30:11.8%）を鑑みれば健闘といえます。
- 全国各地からの学生構成となっています。

- 学生受入状況（人）

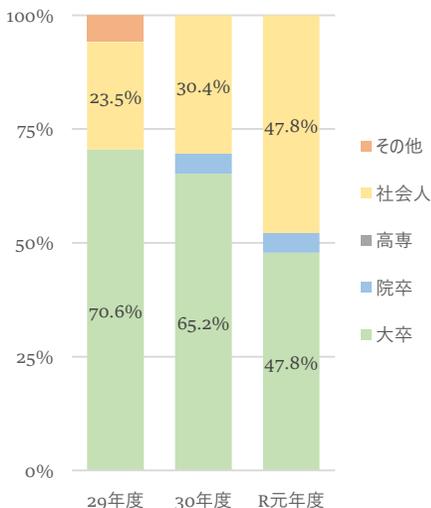
	入学者（倍率）	性別			出身地別			経歴別								
		男	女		県内	県外	外国	大卒業	院修了	高専	研究生	専門学校等	社会人（文系）	社会人（理系）	社会人（教員）	
R元年度	23 (1.6)	15	8		2	20	1	11	1					5	6	
30年度	23 (1.7)	16	7		2	21	0	15	1					3	3	1
29年度	17 (1.8)	12	5		1	14	2	12				1	2	2		
28年度	19 (1.4)	15	4		2	16	1	9					6	4		
27年度	20 (1.8)	13	7		2	17	1	12	1	1	1				5	



- 出身分野 (%)



- 経歴 (%)



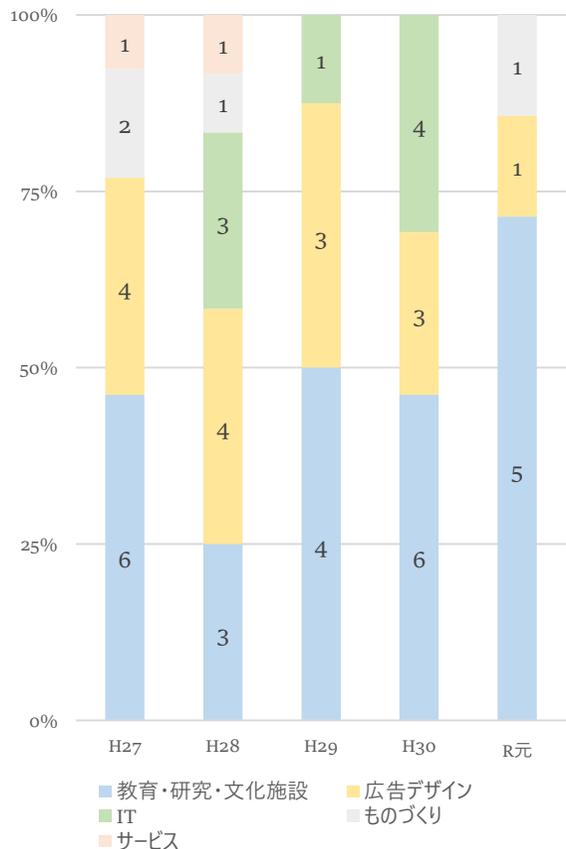
- 出身大学等（過去3年）

- R元- 京都精華大、お茶の水女子大大学院、東京理科大、武蔵野美大、横浜国立大、東京藝大、金沢美術工芸大、慶應義塾大、筑波大、九州大、多摩美大、立命館大、千葉大、東京大、名古屋芸術大、ロンドン芸術大、Interaction and Moving Image、London college of communication
- H30- 多摩美術大、名城大、名古屋市立大、東京工科大、山形大、東京音楽大、芝浦工業大、富山大、九州大、武蔵野大、龍谷大、筑波大、昭和音楽大、横浜国立大、甲南女子大、名古屋学芸大、琉球大、北海道教育大、金沢大大学院、武蔵野美大、広島市立大大学院、BA Drama, Queen Mary, University of London
- H29- 福井大、富山大、ロシア国立ペルミバレエ学校、東京女大、長岡造大、名古屋学芸大、立命館大、大阪芸大、千葉大大学院、武蔵野美大、相模女大、ソウル芸大、日大、九州大、秋田工芸大

進路

- 教育機関や文化施設、広告やデザイン系企業への就職が多い傾向となっています。
- 近年はベンチャー型ものづくり系企業への就職希望者が増加しています。
- 修了生ベンチャー企業（㈱ライゾマティクスや㈱GOCCO、など）で働く者も増加しています。
- フリーランスや自営でデザインやアートなどクリエイティブな仕事をする者は3割程度あります。
- 近年、県内での就職や自営、あるいは居住を希望する修了生が増加し、東海圏における修了生の定着率は高くなっています。

- 進路状況（人）



- 修了生の進路

- 就職先（過去5年）

- 県内

㈱インフォファーム、㈱TAB、本巣市地域おこし協力隊、岐阜各務野高等学校、中村直永デザイン事務所、Fresh Lab Takayama、（公財）ソフトピアジャパン

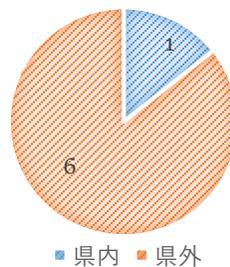
- 県外

1-10 drive、名古屋音楽大学、（公財）京都芸術文化協会京都芸術センター、㈱オルタスジャパン、多摩美術大学、㈱サイバーエージェント、㈱ケイズデザインラボ、ユカイ工学㈱、㈱日本テレビアート、㈱二番工房、京都造形芸術大学、㈱プロノハーツ、Noiz Architects、NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]、(有) BANZAI CREATIVE、愛知淑徳大学、Takram desing engineering、㈱博報堂プロダクツ、㈱カヤック、（特非）こどもNPO、㈱N and R Foldings Japan、FMいちのみや㈱、愛知北エフエム放送㈱、山口芸術情報センター[YCAM]、京都精華大学、秋田公立美術大学、㈱ゼオ、㈱QUANTUM、神戸芸術工科大学、㈱ライゾマティクス、名古屋芸術大学、㈱Hakbee Lanka、㈱桃鶴堂、㈱丹青社、1-10 drive、都城市立図書館、東京藝術大学、静岡文化芸術大学、同志社女子大学

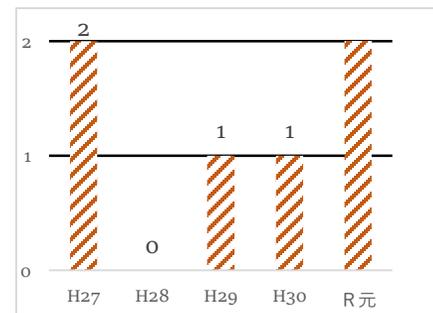
- 進学

京都市立芸術大学大学院美術研究科博士（後期）課程、慶應義塾大学大学院後期博士課程

- 就職先県内外別R元（人）



- 研究生の状況（人）



組織図



- 教職員数

	教授	准教授	講師	助教	教員合計 (左計)	事務局 職員	専門職等
大学院大学	13	5	1	0	19	11	11
(うち女性)	(1)		(1)		(2)	(3)	(5)

RCIC

- 産業文化研究センター（Research Center for Industrial Culture [RCIC]）は、産官学連携・地域連携、Webや印刷媒体による広報、イベントの企画運営など、IAMASの連携業務および情報発信を主に行う附置機関です。
- IAMASの研究成果を、産官学連携や文化活動などさまざまな形で地域社会に実装することに取り組んでいます。
- 近年、イアマスこどもだいがくや岐阜県職員研修など、地域連携の一環として教育事業に力を入れています。
- 本年度は県内研究者との勉強会や、起業家などのネットワーク促進を目的としたラジオ番組など新たな活動を実施しています。

子ども向け教育事業

❖ イアマスこどもだいがく

図画工作や科学実験という枠組みを超えた発想の育成を目的とした教育事業の一環として今年も昨年に引き続き、大垣市と連携しワークショップを開催

第1回 とくめいおえかき～見えない人といっしょに絵をかこう～

2019年8月22日(木) 13:00 - 15:00

講師 野呂祐人(RCIC 研究員)・工藤恵美(修士2年)

第2回 モノトーク

2019年8月23日(金) 13:00 - 15:00

講師 野呂祐人(RCIC 研究員)・工藤恵美(修士2年)

第3回 ゴムの森

2019年8月27日(火) 13:10 - 15:00

講師 鈴木宣也(IAMAS教授)・星安澄(修士1年)

第4回 からだdeバンド

2019年8月28日(水) 13:00 - 15:00

講師 星安澄(修士1年)・鈴木宣也(IAMAS教授)

共催 大垣市情報企画課、IAMAS



❖ アイ手 - プロジェクト

現代の情報のやりとりを「手」を使って考える遊びのプログラム

第1回 とくめいおえかき～見えない人といっしょに絵をかこう～ああ

2019年11月17日(日) 13:00 - 15:00

講師 野呂祐人(RCIC 研究員)・工藤恵美(修士2年)

第2回 かいへんえにつき

2019年11月24日(日) 13:00 - 15:00

講師 野呂祐人(RCIC 研究員)・工藤恵美(修士2年)

共催 大垣市情報工房、IAMAS



❖ 岐阜県美術館リニューアルオープニングイベント

岐阜県美術館の庭園を使ったワークショップを実施

ヒミツ基地大作戦～岐阜県美術館のヒミツ～

2019年11月3日(日) 10:00 - 16:00

講師 星安澄(修士1年)・金山智子(IAMAS教授)

共催 岐阜県美術館、IAMAS



社会人向け教育事業

❖ 行政アイデアスケッチ

岐阜県職員を対象に、既存の組織や業務にとらわれない多様な視点からアイデアを生み出す体験を通して、自身の現場で新しい価値を生み出す意識の醸成を図る

第1回 研修

2019年8月20日(火) 9:30 - 17:00

講師 鈴木宣也(IAMAS教授)・金山智子(IAMAS教授)

第2回 研修

9月4日(月) 9:30 - 17:00

講師 小林茂(IAMAS教授)・金山智子(IAMAS教授)

主催 岐阜県職員研修所



❖ 広告代理店向けプロトタイプング

クリエイティブ業界のプロフェッショナルを対象としたアイデアを形にしていくためのプロトタイプング・ワークショップ（昨年度からの継続事業）

2019年8月 5日(月) アイデアだし

2019年9月30日(月) Arduinoを使ったワークショップ

2019年10月4日(金) プロトタイプング

2019年11月11日(月) プロトタイプング

2019年12月16日(月) プロトタイプング

講師 鈴木宣也(IAMAS教授)・金山智子(IAMAS教授)

共同研究 (株) 大広、IAMAS



連携促進事業

❖ イアマス波 (ウェイブ)

持続可能な社会を目指して新たな価値創造に挑戦する起業家、クリエイターなどを毎回ゲストに迎え、地域社会のみらいについて語るラジオ番組

放送： 岐阜チャンラジオ AM1431 k Hz / FM90.4MHz

毎月最終土曜25時（1時間番組）2019年4月～9月放送

出演： 金山智子・小林茂・鍋谷美華・津曲洸太・木村佳

柴田一秀・柴田英徳

制作： 金山智子・鍋谷美華・津曲洸太

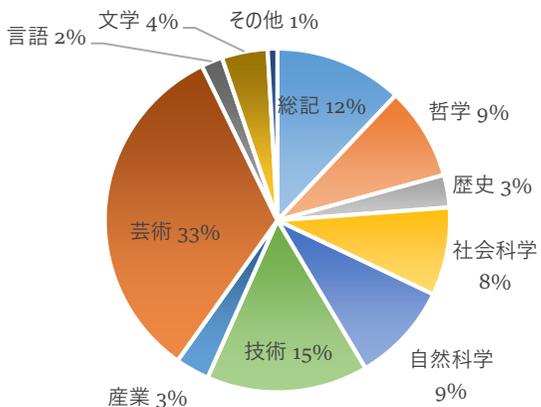
監修： 三輪眞弘



附属 図書館

- 教育研究支援
 - ・メディア表現の教育研究に資する資料を収集しており、蔵書構成では技術や芸術の分野の割合が大きくなっています。
 - ・利用は年間貸出3,482点で、学生1人当貸出48点は公立大学平均7.9点を大きく上回ります。
 - ・教職員の協力で「図書館便り」の発行や、定期的な新着図書案内のメール配信などをおこない、利用促進を図っています。
- 地域貢献
 - ・学外者の入館者数は移転後1,000人以上に増加。公開講座を毎週開催し、地域に開かれた図書館として機能しています。

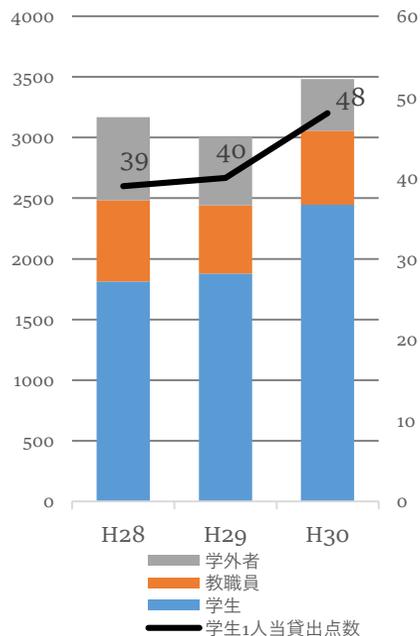
- 分類別蔵書割合



- 蔵書数 (H31.3現在)

図書	44,337冊
視聴覚資料 (DVDなど)	3,193点
雑誌	156種
データベース	3種
電子ジャーナル	6種

- 貸出点数

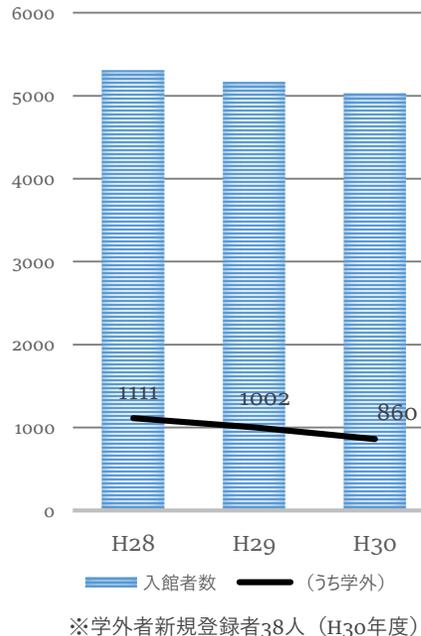


- 公開講座「今週の一冊」

小林昌廣教授
毎週木曜 午後6時半～
239回開催 (H26～R元.10末) 参加者2,003人

※岐阜県図書館でも開催 (H27～R元 25回)

- 入館者数



- 資料展示

「IAMAS教員・卒業生著作展示」(4～8月)
「1968」(6～8月)
「スマホの10年とソーシャルメディア」(9～10月)

- 「図書館便りvol.13」

- 特集：ジームス・ギブソン
自作を語る/思い出の一冊/
学生に薦める一冊
- 図書館を活用する



教育

- IAMASでの授業は、個人、グループ、社会という構成を特色としています。「特別研究科目」は研究活動に対する課題解決に必要な方法を習得するゼミ形式によるチームティーチングを特色とする科目です。
- 制作演習は、プロジェクト実習や個人制作を行うにあたって重要と思われる実践的なスキルを習得することを目的とした授業です。
- 2019年度から「社会人短期在学コース」を設置しました。また、2021年4月に博士後期課程を開設予定です。

- 制作演習（行動分析）

制作演習科目の中の一つである「行動分析」は、観察やインタビューにより人々の行動を分析し、洞察へとつなげる定性的な手法を学ぶことを目的とし、ワークショップを中心とする形式で開講しています。

今年の課題は「ソフトピアアジアセンタービル周辺において、どのような人々が、何を目的に、どのように過ごしているのか、そこにどのような課題や可能性があるのかを明らかにする。」です。

演習の最後では、お互いのテキストを読みながら、それぞれが観察した現場に関する洞察を抽出し、根拠とともに記述し発表しました。定性的な調査手法の一つである観察を実際に行い、繰り返しレビューを受けながら取り組んだ経験は、今後の研究に活かされるものと期待しています。

2019年7月3日(水) - 7月9日(火)
小林茂教授、金山智子教授



- 社会人短期在学コースの設置

本学は、2019年度より社会人短期在学コースを設置しました。

このコースは、作品制作や社会活動など何らかの実績がある人々や、企業などで先駆的な研究・開発テーマに取り組んでいる人々を対象とし、本学でそれらの実績を基に研究を進めることを前提として、通常は2年間の大学院修士課程を1年間に凝縮したカリキュラムで実施するコースです。2019年度は、本コースに4人が入学しました。

[コースの特徴]

通常は2年間の修士課程が1年間に凝縮されている他は全く同じ内容のコースとなっており、夜間や休日に開催される独立したコースではありません。

このため、自らの活動を振り返り、関連する分野について学び、徹底的に言語化することに集中できます。また、同時期に在学する他の学生と一緒にチームとして活動することを通じて、異分野の刺激を受け、修了後も継続する関係性を構築することができます。

- 博士後期課程の設置（2021年4月開設予定）

IAMASは、修士課程のみの大学院大学として、最新の科学技術や文化を吸収しながら先端的な「芸術表現やデザイン、新しいコミュニティやものづくりのあり方などを社会へ提案し、実践的な研究を通じて「高度な表現者」の育成を目指してきました。

しかし、大学院において設置が一般的な博士後期課程が無いことで（国公立大学における博士課程設置率は約85%）、優秀な人材が他大学を選択したり、IAMASを卒業後に、さらに研究を継続したい学生がやむを得ず他大学の博士課程に進学するなどの課題が生じています。

そのため、修士2年、博士3年、計5年間の一貫教育研究体制を整備し、大学の魅力度を高め、社会実践力のある研究成果を生み出せる体制整備を目的として、博士後期課程を新設することとなりました。現在、文部科学省への設置認可申請の準備中です。（2020年3月提出）

[博士後期課程]

開設時期：2021年4月

修業年限：3年

入学定員：3人

研究

プロジェクト型研究:

- IAMASの研究の中心の一つにプロジェクト研究があり、研究の関心や方向性が示されます。これからの社会における創造や新しい社会を創るデザインをテーマにした研究が増えています。
- プロジェクト研究では、広い視野と企画力、組織力、加えてアイデアを実現に導くマネジメント能力などを身につけることを目指します。

体験拡張環境プロジェクト

リアルタイム時空間・情報空間を対象として、テクノロジーによって体験が拡張される環境を創出するための研究を行っています。

未来を見据えた体験をもたらすためのシステムやサービス、作品について議論しながら政策を行い、様々なイベントと連携した実践的な場にて実験を進めながら研究開発を実施しています。

期間：2015年度～

研究代表者：平林真実教授、研究分担者：小林孝浩教授

2018年度の主な活動について

〔外部展示〕

- ・アジアデジタルコンテンツアワード大賞で、伏田昌弘さん（修士1年）の作品「Face Session」が学生カテゴリ- インタラクティブアート部門において優秀賞を受賞し、展示を行いました。

2019年2月7日(木)～2月12日(火) 福岡アジア美術館（福岡県福岡市博多区）

〔学会発表〕

- ・情報処理学会エンタテインメントコンピューティング2018において発表を行いました。

「演者の手の動きを取り入れたライブコーディングによる映像表現の試み」

中田浩平さん（修士1年）、平林真実教授、小林孝浩教授

2018年9月13日(金)～9月15日(日) 電気通信大学（東京都調布市）

- ・情報処理学会インタラクティブ2019において、インタラクティブ発表を行いました。

「Face Session：顔をういて創出される音楽での観客参加型音楽の可能性」

伏田昌弘さん（修士1年）、平林真実教授、小林孝浩教授

2019年3月6日(水)～3月8日(金) 国立情報学研究所学術総合センター（東京都千代田区）



Archival Archotyping プロジェクト

Archival Archotypingとは、作家が作品を制作する段階から、新たな創造のために創造的行為を機械学習のモデルとして記録、保存することにより、アーカイブ（創造のための編纂手法）とアーキタイプ（原型）を同時に実現する基盤を構築しようという考え方です。習作を題材として実際に基盤の構築を試みることを通じて、21世紀における人、機械、自然の関係を扱える新たなメディアを探求します。

〔研究計画〕

既存のインストール作品に基づく習作をVR空間上で制作するための環境を構築し、政策の課程から物体の配置情報とそれに対する作者の評価情報を記録し、学習したモデルを作成します。その上で、作成したモデルを用いた様々な評価を行い、他の作品や活動とも比較しながら分析し、よりよいアーカイブの手法を探求します。

期間：2019年度～

研究代表者：小林茂教授、研究分担者：クワクボリョウタ准教授、松井茂准教授



プロジェクトのきっかけとなった作品 クワクボリョウタ「10番目の感傷（点・線・面）」（2010年）
撮影：木奥恵三 写真提供：NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]

タイムベースメディア・プロジェクト

かつて「芸術」と呼ばれていたものは、現在においてどのような意味を持つものなのでしょうか？このプロジェクトでは時間芸術、すなわち時間的経過の中で行われる様々な表現に注目し、「装置を用いた表現」と伝統的な芸能の習得／実践双方を通して、この問題に取り組みます。それは、機械と私たちの身体、さらにメディアと人間存在との関係性を問うことでもあります。

期間：2018年度～

研究代表者：三輪眞弘学長、研究分担者：前田真二郎教授

本プロジェクトでは、昨年に引き続き、ガムラン音楽を人類が築き上げた時間芸術のひとつの到達点と位置づけ、単なる研究のみならずその基礎から習得することを目標とします。ガムラン音楽から知見を得た舞台作品を実践的に創作します。また、昨年同様に、ネットワーク上の「新しい時空間」における表現の可能性として、ネットストリーミングによる表現のあり方も探求していきます。他事業との連携によるワークショップの開催も予定しています。

- ・ガムラン音楽研究、実習、調査（通年）
- ・インターネット上での作品発表（通年）
- ・IAMAS展成果発表会（2月）
- ・サラマンカホール（岐阜県岐阜市）「ぎふ未来音楽展」（9月）
- ・インターカレッジ・ソニックアーツ・フェスティバル2019（12月）
- ・IAMAS2020 プロジェクト成果発表会（2月）
- ・日本映像学会中部支部 学生発表（3月）



移動体芸術

「移動体芸術」は、自転車やドローンなどの移動する道具装置と、それを利用する人々の様相を対象とし、野外での拡張現実感（AR）など新しい表現手法を探索するアート・プロジェクトです。主な活動には、養老公園におけるイベント「養老アート・ピクニック」や、中部山岳国立公園における体験鑑賞アプリの企画運営があります。

期間：2017年度～

研究代表者：赤松正行教授

研究分担者：伊村靖子講師、松井茂准教授、瀬川晃准教授、鈴木宣也教授、前林明次教授

－ 養老アート・ピクニック

養老公園の基本コンセプト「健康長寿の願いと命への感謝が込められた自然と歴史をたどる」に沿って、公園の新たな魅力づくりとして岐阜県とIAMASが連携してアートイベントを実施しました。世界に類を見ない型破りなアート作品「養老天命反転地」と美しい自然のアート「養老の滝」を見られる養老公園を会場として、メディアアート、身体表現、音楽、クラフトなど多様なジャンルのアーティストが体験型のアートプロジェクトを展開する、大人も子どもたちも公園を散策しながら気軽にアートを楽しめるピクニック型のアートイベントです。総合ディレクションを赤松正行教授が務めました。

2018年11月3日(土)～11月4日(日)

場所：養老公園一帯（岐阜県養老郡養老町）



根尾コ・クリエイション

岐阜県本巣市根尾地域は、能郷白山神社、樹齢1500年の淡墨桜、五百年続く能郷能狂言など、豊かな自然と文化遺産があり、自立的な仕組みや生活文化を生み出してきました。政治経済など現代社会に組み込まれていく中で、根尾の人たちが育んできた文化を新しい視点をもって捉え直し、持続可能で自立共生な社会の創造とそのための技術とは何かを考えていきます。2018年から「生活文化の記憶と記録」と「生きるための創造と技術」をテーマに、フィールドワークを行いながら、新たな表現を試みています。

期間：2015年度～

研究代表者：金山智子教授

研究分担者：小林孝浩教授、吉田茂樹教授、鈴木宣也教授

❖ 集落ごとに住民がつくりあげた水源分配の調査

山奥の水源から長いパイプを引き、各家に分配する仕組みを構築。適正技術と集落の管理運営についてフィールドワークやヒアリングを実施。現在7集落（全体の2割程度）まで実施。



❖ 根尾の人たちの聴き語り「あんばようしようまいか」

- 第4回 根尾村史をよもう、根尾村誌をつくらう① (2019.5.11)
- 第5回 根尾村史をよもう、根尾村誌をつくらう② (2019.6.15)
- 第6回 根尾の盆踊りを体験しよう (2019.7.21)
- 第7回 根尾の神社について、ちゃんとしよう(2019.10.26)



❖ 伝統芸能文化の新たな継承の取り組み

拝殿で掛け歌しながら踊る盆踊りを身体とテクノロジーにより記録し記憶する実験。根尾の能郷集落で世襲で継承されてきた能狂言のデジタルアーカイブ化の試み。調査の一部は2019年9月の地域活性化学会にて発表。



❖ 地元子ども向けのワークショップの企画運営

根尾小学校ワークショップ (2019.1.21/ 3.15/ 6.17/ 12.2)
「みんなでミュージックお絵かき～根尾の歌姫をすくえ！」
(2019.8.10)



❖ ねお古材団の企画運営

根尾の廃材や不要な家具を循環する取組み。地元の大工さんと毎週土曜日ねおこ座で開催。



Action Design Research Project

アクション・リサーチの経験的手法を取り入れたデザイン研究手法「アクション・デザイン・リサーチ」の確立を目指します。フィールドワークを中心に据え、ケーススタディとして、中小企業におけるデジタル・ファブリケーションの活用事例の調査を行う。その上で、それぞれの企業がもつ技術力を背景とした、ソーシャル・ファブリケーションとしてのものづくり・発信手法について検討し、様々な人々を巻き込んだデザイン実践を試みます。

期間：2019年度～

研究代表者：赤羽享准教授、研究分担者：伊村靖子講師

一 企業訪問

今年度は、フィールドワークを中心に据え、ケーススタディとして、岐阜県内及び近隣の中小企業を中心にデジタル・ファブリケーションの活用事例の調査を実施しています。

2019年7月10日(水)

藤工芸株式会社 (岐阜県揖斐郡大野町)

2019年7月31日(水)

企画画廊 GALLERY CAPTION (岐阜県岐阜市)

2019年8月1日(木)

堀江織物株式会社 (愛知県一宮市)



福祉の技術プロジェクト

広く解釈されている福祉から我々の生活に潜む小さな課題も「福祉」と捉え、現場でのフィールドワークを通じて発見した新たな視点を提案したり、問題解決を図るなどの活動を行っています。これまでに、特別支援学校の児童に対する個別対応を考慮したワークショップを施設の先生方と実践したり、障害者支援施設での提案を行ってきました。これらの施設と引き続き連携します。

期間：2014年度～

研究代表者：山田晃嗣准教授、研究分担者：小林孝浩教授

－ 『来て・見て・ふれて 福祉ワールド』福祉体験イベント in モレラ岐阜

(主催：岐阜県社会福祉協議会・岐阜県福祉人材総合支援センター)

本プロジェクトの活動紹介と視覚障害者支援団体の岐阜アソシアと本学が連携した内容を展示・体験会の形式で関わりました。体験会としては古点字新聞を再利用した封筒作成やモビールの作成、点字打ち体験、ハンドサイクルの体験会、目隠しオセロゲーム体験などが行われました。

2019年7月5日(金)～7月6日(土)

場所：モレラ岐阜（岐阜県本巣市三橋1100）



－ ロボフェス おおがき (主催：大垣観光協会)

本プロジェクトの活動紹介のために展示を行いました。学生の活動展示の他、プロジェクト研究補助員による展示などが行われました。

2019年9月28日(土)～9月29日(日)

場所：ソフトピアジャパン・センタービル1F



外部資金研究

- 公費や財団助成による研究、受託や委託研究と多くの研究が実施されています。
- 一般財団（小川科学技術財団など）の助成を受けている教員も3割程度あります。
- 他機関の研究に研究分担者として参加する教員も増えています。

外部資金研究

科学研究費 / 日本学術振興会 Grant-in-Aid for Scientific Research

- 基盤研究C ◎金山智子教授
 H29-R1 コミュニティラジオがつくる震災の記録と記憶の可能性に関する研究
- 基盤研究C ◎松井茂准教授、伊村靖子講師
 H29-R1 マス・メディア空間における芸術表現と情報流通の研究
- 基盤研究C ◎カストロ・ホアン・マヌエル准教授
 H30-R2 Investigation on wetware art in the post-digital age
- 基盤研究A 三輪真弘教授
 H30-R4 1970年代以降の人文学ならびに芸術における語りの形式についての領域横断的研究
- 基盤研究B 鈴木宣也教授
 H30-R2 ヴィジュアルリテラシー普及に向けた基準策定とツールの開発
- 基盤研究C 赤羽准教授
 R1-R3 時間軸を持つ3Dデータ及び映像・音響データを用いたアーカイブシステムの開発

◎ = 研究代表者

公益財団法人小川科学技術財団研究助成金

- H30-R1 エンターテインメントとしての共鳴現象を引き起こすAIの開発（金山智子教授）
 R1-R2 重要民俗無形文化財の継承支援のための四次元データアーカイブ（小林孝浩教授）
 R1-R2 デジタルアプリケーションを前提としたデザインシステムの開発（赤羽亨教授）

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化センター

- 重点共同研究 ◎松井茂准教授、前田真二郎教授、伊村靖子講師
 R1 マス・メディアの中の芸術家像

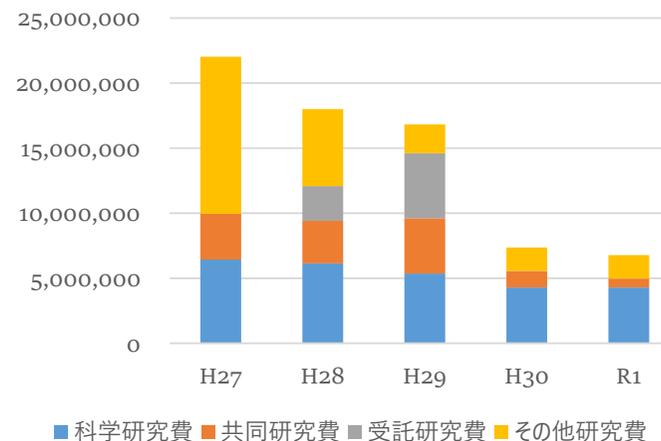
京都大学人文科学研究所

- 共同研究拠点 ◎三輪真弘学長、松井茂准教授
 R1 「システム内存在としての世界」についてのアートを媒介とする文理融合的研究

COI拠点「感性とデジタル製造を直結し、生活者の創造性を拡張するファブ地球社会創造拠点」（国立研究開発法人科学技術振興機構）

- H25-R3 小林茂教授

外部資金調達額 ※R1年度は10月末まで



科学研究費 基盤研究C

コミュニティラジオがつくる震災の記録と記憶の可能性に関する研究

自然災害の常襲国である日本では、震災の記録と記憶をいかにアーカイブし、継承していくかが重要です。東日本大震災以降、国土強靱化計画が推進される中、震災の記録と記憶は防災・減災に活用されることが主な目的となっています。一方、震災の経験は本来個人の体験であり、個々人の物語を地域コミュニティの集合的記憶として共有し、未来につなげることが重要です。コミュニティFMは、災害復旧復興時に有効なメディアであり、「ひとの声による語り」と「被災地の人たちに寄り添うメディア」として評価されていますが、その震災の記憶と記録における役割については、これまで研究されてきませんでした。本研究では、コミュニティFMで語られる個人の物語が、いかに地域で共有され、地域のアーカイブとしてコミュニティの未来へとつながるのか、定性調査を通じて、探求・調査することを目的としています。

期間：2017年度～2019年度
 研究代表者：金山智子教授（IAMAS）
 研究分担者：小川明子准教授（名古屋大学）

2018年11月～2019年10月において発表した研究成果の一部は以下のとおり。

- ❖ 金山智子「震災の集合的記憶と地域のメディア・イベント—阪神淡路大震災の事例から—」第5回震災問題研究交流会研究報告書 2019.11
- ❖ Kanayama, Tomoko・Ogawa, Akiko “Community Radio as Apparatus to Remember Disaster: Case studies of the Great East Japan Earthquake” 第62回国際メディアコミュニケーション学会（マドリド） 2019.6
- ❖ 金山智子「震災の記憶と記録の装置としてのコミュニティラジオ～阪神淡路大震災の事例から」第5回震災問題研究交流会（早稲田大学） 2019.3
- ❖ 世界コミュニティラジオ連盟アジア太平洋地区大会「Community Radio Policy」 「Emergency Radio」パネリスト（ジョグジャカルタ） 2018.12

科学研究費 基盤研究C

Investigation on wetware art in the post-digital age

ポスト・デジタル時代におけるウェットウェア・アートに関する研究を行っています。2019年6月7日（金）には、多摩美術大学八王子キャンパスにおいて「活動する物質：アートと自己組織物質/物質の行為者性/プロト・エイリアン」と題して国際シンポジウムを開催しました。このシンポジウムは、「物質とその能動的なふるまい」を参照点として、芸術、哲学、化学、生命科学、宇宙生物学といった様々な分野の研究者、創作者が出会い、ウェットウェア・アートの過去、現在、そしてこれからの可能性を議論することを目的に開催しました。

期間：2018年度～2020年度
 研究代表者：カストロ・ホアン准教授（IAMAS）
 研究分担者：久保田晃弘教授（多摩美術大学）

科学研究費 基盤研究C

マス・メディア空間における芸術表現と情報流通の研究

本研究は、第2次世界大戦後の日本の現代芸術の動向を、マス・メディア（放送文化と出版文化）を分母とした文化現象として再配置することを目的としています。マス・メディア空間を芸術表現の支持体として発表された作品は、同一メディア空間上でより広汎に流通すること（情報としての流通）をも表現に組み込んでいると見なせることがままあります。観衆、聴衆が作品と情報を弁別することなく芸術表現として受容する領域を、現代芸術が見出した戦略的な「公共圏」とみなし、放送文化における番組という枠組みや、出版文化つまり雑誌における目次や装幀やデザインを、芸術学の研究対象として理論化をはかり、この領域における作家、編集者、キュレーター、ライター的位置づけを分析的研究対象として資料体を編成します。

期間：2017年度～2019年度
 研究代表者：松井茂准教授（IAMAS）
 研究分担者：伊村靖子講師（IAMAS）、中西博之研究員（(独法)国立美術館国立国際美術館）、原久子教授（大阪電気通信大学）

科学研究費 基盤研究C

時間軸を持つ3Dデータ及び映像・音響データを用いたアーカイブシステムの開発

メディアアート作品の保存・修復過程への寄与を目的として、作品の展示空間と鑑賞行動双方の変化を時間的3Dデータとして記録・閲覧するシステムの開発を行います。本研究では、これまでの研究成果を踏まえ、課題となっていた作品向け点群スキャナの精度向上、スキャニング範囲の拡張を前提とした新たな3Dスキャニングシステムの開発を行い、時間軸を持つ作品点群データ、鑑賞者ポーンデータ、映像・音響データを同期して閲覧可能な「タイムベースデータビューワー」を開発します。

期間：2019年度～2021年度
 研究代表者：池田泰教講師（静岡文化芸術大学）
 研究分担者：赤羽享准教授（IAMAS）、飛谷謙介博士研究員（関西学院大学）

科学研究費 基盤研究A

1970年代以降の人文学ならびに芸術における語りの形式についての領域横断的研究

現在、われわれ人類は人為的エネルギーに支えられた高度テクノロジーの只中で生きており、一見「自然」や「環境」や「心」と見えるものすら、システムなしに存立し得ない状況に至っています。そして生命や心さえ含む地上の全存在が巨大システムに組み込まれていくこの時代の相貌につき、「サイバネティクス」「テクノロジー」「メディア」「情報学」を切り口とし、人文学系と自然科学系の知見の総合をはかる可能性を探ります。また、人文学と社会科学と自然科学の分断、細かく分化した学術領域の間の分断、産業や政治など実社会と学問領域との分断を乗り越えることは喫緊の課題であり、また諸学の過度の専門化が学知の「分断」の大きな原因であることは言うまでもありませんが、それに対して本研究は、「文」と「理」の間に「アート実践」をインターフェイスとして介在させることで、学知の分断を克服し、また学知に感性という具体性の次元を取り戻すことを目指します。

期間：2018年度～2022年度

研究代表者：岡田暁生教授（京都大学）

研究分担者：三輪眞弘学長（IAMAS）、藤原辰史教授（京都大学）、小関隆教授（京都大学）、橋本伸也教授（関西学院大学）、田辺明生教授（東京大学）、佐藤淳二教授（京都大学）、藤井俊之助教（京都大学）、森本淳生准教授（京都大学）、上田和彦教授（関西学院大学）

科学研究費 基盤研究B

ヴィジュアルリテラシー普及に向けた基準策定とツールの開発

ヴィジュアルリテラシー教育をひろく社会に普及することを目指して、調査をおこない、ツールを開発し、その基準を策定します。今日、インターネットやSNSといった電子メディアを通して、多様かつ大量な視覚情報が絶え間なく私たちに送られてきます。その読解と活用は日常生活において一層重要性を増しています。欧米における普及に比して、日本では、市民の理解は遅れています。本研究グループがこれまで進めてきた、大学におけるヴィジュアルリテラシー教育に関する成果をふまえ、企業、地域、児童教育の三分野へと展開する。基礎研究・調査として、国内外の事例を集めて検討し、訪問によって調査、検討してきました。それをもとに、ヴィジュアルリテラシー普及のための基準の策定の方向性を描くとともに、ツール開発にむけてシステムを開発します。

期間：2018年度～2020年度

研究代表者：茂登山清文教授（名古屋芸術大学）

研究分担者：鈴木宣也教授（IAMAS）、遠藤潤一准教授（金城学院大学）、遠藤麻里講師（広島国際学院大学）、定国伸吾准教授（静岡理工科大学）、水内智英准教授（名古屋芸術大学）

（公財）小川科学技術財団研究助成

エンターテインメントとしての共鳴現象を引き起こすAIの開発

AIとの新しいコミュニケーションやアートやデザインといったクリエイティブな活動が求められることが予想されることから、本研究では、AIと人との共存する未来型社会におけるクリエイティビティの可能性についての実践型研究として、リアルタイム自動演奏装置を開発することを目的としました。研究成果の一部は、第38回JSSA先端芸術音楽創作学会にて発表し、また、インターカレッジ・ソニックアーツ・フェスティバル2018にてパフォーマンスを実施しました。

期間：2018年度～2019年度

研究代表者：金山智子教授（IAMAS）

共同研究者：三輪眞弘学長（IAMAS）

津曲洸太（IAMAS修士2年）



（公財）小川科学技術財団研究助成

重要民俗無形文化財の継承支援のための四次元データアーカイブ

アミューズメント向けに開発された安価な三次元距離画像計測装置を用い、能や狂言、盆踊りなど、細やかな動きに注目した記録を行う。一台の装置だけで奥行きを持った情報を取得できるため、平面的な映像だけでは得られにくい細やかな動きについての情報取得が期待できます。本研究では、当該装置の可能性や限界を明らかにすることを目的とします。

期間：2019年度～2020年度

研究代表者：小林孝浩教授（IAMAS）

共同研究者：金山智子教授（IAMAS）

吉田茂樹教授（IAMAS）



（公財）小川科学技術財団研究助成 デジタルファブリケーションを前提としたデザインシステムの開発

これまで、専門的な知識なしに一般の人々が様々な用途のための家具をデザインできる「One-size-fits-one：主観的な長さをもとにしたパラメトリックデザインシステム」の開発を行ってきました。主観的なサイズをジェスチャーで示してもらい、それらをセンサーを用いて計測し、家具の設計に反映できるシステムを用いることによって、パラメトリックデザインの可能性は示せたものの、実際の家具のデザインへの適応のために解決すべき問題も顕在化してきました。本研究ではこの点に焦点をあて、空間的ボリュームの検討を可能にする新たなデザインツール（空間的ボリューム検討ツール＋計測ツール）の開発を行います。最終的には、ここで開発したデザインツールをこれまで開発したデザインシステムと統合させることを目論みます。これによってデジタルファブリケーションを前提とした、専門的な知識がなくても自由度の高い「設計」を行える実用的なデザインシステムを構築することを目指します。

期間：2019年度～2020年度

研究代表者：赤羽享准教授（IAMAS）

共同研究者：富田太基（IAMAS補助研究員・(株)TAB デザイナー）

京都大学人文科学研究所 共同研究拠点 「システム内存在としての世界」についてのアートを媒介とする文理融合的研究

現在、われわれ人類は人為的エネルギーに支えられた高度テクノロジーの只中で生きており、一見「自然」や「環境」や「心」と見えるものすら、システムなしに存立しえない状況に至っています。本研究はこの認識から出発します。そして生命や心さえ含む地上の全存在が巨大システムに組み込まれていくこの時代の相貌につき、「サイバネティクス」「テクノロジー」「メディア」「情報学」を切り口とし、芸術創造に携わる申請者が媒介となることで人文学系と自然科学系の知見の総合をはかり、学知の認識を紙媒体だけでなくビデオアートや音楽作品の制作という感性的次元において発信する可能性を探ります。

期間：2019年度

班長：三輪眞弘学長（IAMAS）

班員（学外）：松井茂准教授（IAMAS）、佐近田展康教授（名古屋学芸大学）、山崎雅史（㈱NTTデータセキュリティシステムズ）、岩崎秀雄教授（早稲田大学）

班員（京都大学学内）：岡田暁生教授、瀬戸口明久准教授、佐藤淳二教授、藤井俊之助教、上尾真道研究員

人間文化研究機構 国際日本文化研究センター 共同研究 マス・メディアの中の芸術家像

本研究では、第2次世界大戦後のメディアをめぐるインフラストラクチャーの変化を踏まえ、現代芸術（美術、音楽、文学、建築、思想など）を文化現象として再配置し、作家像、作品概念の変化を検証します。マス・メディア（放送文化と出版文化）を介してはかられる領域横断は、芸術家相互の新たなネットワークを生成することで、旧来の制度化された芸術諸分野を解体してきました。こうした状況において、現代芸術は、抵抗文化としてのラディカルな戦略をいかに設計してきたのかを抽出します。

期間：2019年度

研究代表者：松井茂准教授（IAMAS）・坪井秀人教授（国際日本文化研究センター）

共同研究者：前田真二郎教授（IAMAS）、伊村靖子講師（IAMAS）、佐藤知久准教授（京都市立芸術大学）、原久子教授（大阪電気通信大学）、中西博之主任研究員（国立国際美術館）、川崎弘二非常勤講師（相愛大学）、長瀧寛幸教授（東京藝術大学大学院）、外山紀久子教授（埼玉大学大学院）、藤井貞和名誉教授（東京大学）、鈴木勝男主任研究員（東京国立近代美術館）、渡部葉子教授（慶應義塾大学アート・センター）、本間友専任講師（慶應義塾大学ミュージアム・commons）、服部真史（㈱新建築社 編集者）、岡田暁生教授（京都大学）

受賞

IAMASの学生・教員は、毎年、各種の分野で賞を受賞しています。修了生の活躍については、近年ますます注目されています。

- 2019

安野太郎（2004年修了）
第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示（2019年）

平瀬ミキ（2019年修了）
「Translucent Objects」
清流の国ぎふ芸術祭「第2回ぎふ美術展」自由表現部門 優秀賞
AFAF AWARDS 2019 入選
CAF賞2019 海外渡航費授与者 選出

竹村望（2019年修了）
「同じ月を見つめて」
イメーヅフォーラム・フェスティバル2019「東アジア・エキスペリメンタル・コンパティション」ノミネート選出

Scott Allen（2016年修了）
「¥Z¥oom」
デジタル・シヨック省2019

企画・クリエイティブディレクション：川崎鋼平（2004年修了）
アートディレクション：三宅太門（2010年修了）
地球料理-Earth Cuisine - 「Eatree Plates」
The 21th FAB Awards Experiential Marketing Silver

The SINE WAVE ORCHESTRA（メンバーに古舘健（2002年修了））
「The SINE WAVE ORCHESTRA stay」
PRIX ARS ELECTRONICA 2019 Digital Musics & Sound Art 部門 Honorary Mentions

正直（小林暲・時里充（2010年修了））
「”Play Back” Curing tapes」
PRIX ARS ELECTRONICA 2019 Digital Musics & Sound Art 部門 Honorary Mentions

堂園翔矢（プログラマー 2014年修了）、石塚千晃（ディレクター 2015年修了）
「YouFab Global Creative Award 2018」ポスターデザイン
The One Show 2019 Typography / Static SILVER
The One Show 2019 Promotional / Posters-Series BRONZE

おしまたくろう（2017年修了）
「道楽シリーズ # 1 滑琴（かっさん） / DOURAKU Series # 1
“Kuck'in”
2019年度 創造活動助成 for U30 採択

柴田秀徳（修士2年）
「ささえてハウス」
アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム2019・汗かくメディア賞

ココ（野呂祐人（2019年修了）・工藤恵美（修士2年））
「モノトーク・シリーズ」
アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム2019・汗かくメディア賞

— 2018

安野太郎（2004年修了）
第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示（2019年） - 選出

KKKS（柴田一秀、木村佳）（修士1年）
「VideoLooperSystem」
2018アジアデジタルアート大賞展FUKUOKA 学生カテゴリ- インターテイメント（産業応用）部門 大賞
北九州デジタルクリエイターコンテスト2019 中谷日出 審査員賞

菅野創（2009年修了）
「Lasermice」
第22回文化庁メディア芸術祭 アート部門 優秀賞

真鍋大度（2004年修了）／石橋崇（2001年修了）／MIKIKO
／ELEVENPLAY
「discrete figures」
第22回文化庁メディア芸術祭 アート部門 優秀賞

Perfume+Reframe制作チーム（代表：MIKIKO）／真鍋第度
（2004年修了）／石橋崇（2001年修了）
「Perfume × Technology presents “Reframe”」
第22回文化庁メディア芸術祭 インターテイメント部門 優秀賞

野添剛士／齋藤迅／原野賢太郎／田中裕介／真鍋大度（2004年修了）／ダミアン・クラッシュ
OK Go「OBSESSION」
第22回文化庁メディア芸術祭 インターテイメント部門 審査員会推薦作品

小鷹研理（2007年修了）
「ポディエクト指向」
第22回文化庁メディア芸術祭 アート部門 審査員会推薦作品

真鍋大度（2004年修了）／石橋崇（2001年修了）／花井裕也
「Deleted Reality」
第22回文化庁メディア芸術祭 アート部門 審査員会推薦作品

君塚史高（2010年修了）
「タイマーの逆襲」
YouFab Global Creative Awards 2018 ノミネート

長野櫻子（修士1年）
「outlined here」
まちづくりとアートの未来をつくる「第1回 札幌駅前通アワード」奨励賞

伊東友子・時里充（2010年修了）
「めくる映像_特集」
東京TDC賞 2019 RGB賞

五十川泰規（修士1年）、藤城太一
「廃線守の家」
第35回JIA東海支部設計競技 銀賞

加藤明洋（2018年修了）
「TRUSTLESS LIFE」
CREATIVE HACK AWARDS 2018 SONY 特別賞
ISCA(INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD)2018
デジタルコンテンツ部門 優秀賞
YouFab Global Creative Awards 2018 ノミネート
第24回学生CGコンテストMediaAmbition Tokyo賞 & 未来館賞
第24回学生CGコンテストアート部門 ノミネート
第24回学生CGコンテストエンターテインメント部門 ノミネート

浜田卓之（2018年修了）
「Archi-Tekton」
第24回学生CGコンテストアート部門 優秀賞

尾焼津早織（修士2年）
「宇宙人、ひとり。」
第24回学生CGコンテストアート部門 評価委員賞

中路景暁（修士2年）
「Cacade」
第24回学生CGコンテストアート部門 ノミネート

白石覚也（修士1年）
「AI LiveCoding」
第24回学生CGコンテストアート部門 ノミネート

鈴木稔甫（修士1年）
「うごりんぐ」
第24回学生CGコンテストエンターテインメント部門 ノミネート

三宅由里子（2015年修了）
「頭の中の胎児」
2018 アジアデジタルアート大賞展FUKUOKA 一般カテゴリ- 静止画部門 優秀賞

金箱淳一（2008年修了）、猪口大樹、吉田真也
「pitapat」
2018 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリ- インターテイメント（産業応用）部門 優秀賞

柴田一秀（修士1年）
「ゴロゴロくん」
2018 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリ- インタラクティブアート部門 大賞

伏田昌弘（修士1年）
「Face Session」
2018 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリ- インタラクティブアート部門 優秀賞

長野櫻子（修士1年）
「rope jumping」
2018 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリ- インタラクティブアート部門 入賞

安野太郎（2004年修了）
第10回「創造する伝統賞」受賞

The SINE WAVE ORCHESTRA（メンバーに古館健（2002年卒業））
「The SINE WAVE ORCHESTRA stay」
CYNETART 2018

藤堂高行（2014年修了）
「SEER：Simulative Emotional Expression Robot」
ALIFE 2018 [PRIZE WINNER Honorable Mention]
SIGGRAPH2018 Emerging Technologies 採択展示

島影圭佑（2016年修了）
「OTON GLASS」-視覚障がい者の読む能力を拡張する眼鏡-
日本財団ソーシャルイノベーションアワード2018優秀賞

古館健（2002年卒業）
「Pulses/Grains/Phase/Moiré」
第22回文化庁メディア芸術祭 アート部門 大賞
デジタルショック賞2018 グランプリ

ディレクター：株式会社マナビノタネ代表取締役 森田秀之
デザイナー：株式会社アイダアトリエ代表取締役 会田友朗+じん
ちよう事務所 代表 井口仁長（1999年卒業）
「都城市立図書館」
2018年度グッドデザイン賞

山口伊生人（2018年修了）
「文化継承の仕組みとそのフリーペーパー」[HEBO]」
2018年度グッドデザイン賞

ー 2018

都城市立図書館（デザイナーとして参画（じんちよう事務所（代表
井口仁長（1999年卒業））
2018年度グッドデザイン賞

若見ありさ（2000年卒業）（企画・総合監督）、大橋弘典（2000
年卒業）（監督）、松本祐一（2003年卒業）（音楽担当）
「Birth-つむぐいのち・おどるいのち」
福岡インディペンデント映画2018 最優秀アニメーション作品賞
東京ドキュメンタリー映画祭2018 入選

若見ありさ（2000年卒業）（企画・総合監督・制作）、大橋弘典
（2000年卒業）（監督）、松本祐一（2003年卒業）（音楽担当）
「Birth-おどるいのち」
SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2018 入選
Mama Afrika Film Festival2018 入選
Athens ANIMFEST 2018 Official Participation
Hollywood Screenings Film Festival -Short Animation Semi
Finalist
Roma Cinema DOC 2018 -Monthly Select
World of Women Film Fair Middle East 2018

若見ありさ（2000年卒業）（企画・総合監督）、松本祐一（2003
年卒業）（音楽担当）
「Birth - つむぐいのち」
第5回 栃木蔵の街映画祭 アニメーション部門グランプリ
2018 Animation Shorts Film Festival
Hollywood Screenings Film Festival 2018-Short Animation
Semi Finalist

内田聖良（2015年修了）
「ちいさいまよい家／ちいさいまよい家のために」
平成30年度メディア芸術クリエイター育成支援事業 採択

鈴木宣也（教授）、井上奈那美（修士2年）
「シーンスケッチ：具体的な描写・記述を用いたアイデアーション手法」
日本デザイン学会第65回春季研究発表大会 グッドプレゼンテーショ
ン賞

内田聖良（2015年修了）
「くまのかみのけ」
SICF19 金森香賞受賞

平瀬ミキ(修士2年)
「translucent object」
清流の国ぎふ芸術祭「第1回ぎふ美術展」自由表現部門入選

平瀬ミキ(修士2年)
「Window-“誰か”2017.8.13 10:44-10:39」
清流の国ぎふ芸術祭「第1回ぎふ美術展」彫刻部門奨励賞

徳井直生（株式会社Qosmo代表）、堂園翔矢（2014年修了）
「AI DJ Project - A dialog between human and AI through
music」
PRIX ARS ELECTRONICA 2018 Honorary Mentions

日建設計ボランティア部（乾櫻子・2003年修了）、明治大学山本
俊哉研究室、千葉大学木下勇研究室、一般社団法人子ども安全
まちづくりパートナーズ
「逃げ地図づくりを通じた世代間・地域間のリスク・コミュニケーションの
促進」
2018年度日本建築学会教育貢献賞

いまいけぶろじえくと（池田萌・2012年修了 所属）
「身体奏法/stick」岩渕貞太作曲（いまいけぶろじえくと委嘱作品）
サウンドパフォーマンス・プラットフォーム2018 -知覚の解放体験- 選出

おおしまたくろう（2017年修了）
「PLAY A DAY」
サウンドパフォーマンス・プラットフォーム2018 -知覚の解放体験- 選出

TAPS（藤本遼太郎・木村佳）（共に修士1年）
「光景 / light scape」
SMART ILLUMINATIONスマートイルミネーション横浜2018審査員賞

AIK（watakemi+hulc+kairi）（メンバーに綿貫岳海（2018年修
了）
「skate scanner」
SMART ILLUMINATIONスマートイルミネーション横浜2018審査員特
別賞

岐阜イノベーション工房2019

－ シンポジウム IoTの“辺境”（フロンティア）－

「イノベーション工房」は、イノベーション創出に挑戦するための風土を岐阜県内に醸成することを目的として、IAMASが2018年から主催する事業です。

2年目となる2019年は、岐阜イノベーション工房の導入を兼ねて、IoTに関する最新事例を紹介し、議論を通じて理解を深めることを目的としてシンポジウムを開催しました。第1部では、イノベーション創出への取り組みの必要性と、最小限のリスクとコストで取り組むための方法論について基調講演で紹介しました。次に、IoTの辺境を開拓しようとしている方々から、それぞれの取り組みに加えて、その背後にある視点や考え方、課題についてお話しいただき、議論を通じて理解を深めました。最後に、岐阜イノベーション工房のプログラムについてご案内しました。

第1部：基調講演（小林茂教授）

第2部：話題提供と議論

第3部：「岐阜イノベーション工房の紹介」

【話題提供と議論登壇者】

菊川裕也氏（株no new folk studio 代表取締役）

徳井直生氏（スタートバーン株 代表取締役）

小林茂教授

2019年5月31日（金）13:30 - 16:30

会場 ソフトピアジャパン・センタービル セミナーホール

小林茂教授



－ 岐阜イノベーション工房2019（ワークショップ）

岐阜イノベーション工房は、IoT・AI・デジタル設計／製造など、急速に浸透しつつある技術の世界的な変化およびその本質を学び、自ら製品・サービスのアイデアを創出し、実際に体験できるプロトタイプをつくることまでを体験することにより、イノベーション創出に取り組める人材を育成するプログラムです。

情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] がこれまでに確立してきた、デザイン思考とシステム思考に関する知見の中で、製品・サービスの開発に応用できる部分を短期集中の演習プログラムで学び、その後の実習プログラムで深めます。

2019年7月23日（火） - 2020年3月

ドリーム・コア2階岐阜イノベーションセンター

（岐阜県大垣市今宿6-52-16）

小林茂教授

（参加企業）6チーム19人
イビデンエンジニアリング株：3名
株OKB総研：3名
株岐阜多田精機：3名
株GOCCO：4名
株NextDoor：3名
未来工業株：3名

－ イノベーション工房2018 成果・進捗報告会

2018年の事業全体を振り返るとともに、参加企業が実習プログラムにおいて取り組んできた成果について報告しました。報告会には、参加企業関係者以外にも、イノベーションや新規事業創出に関する手法に興味のある方等にも参加いただき実施しました。

全プログラム終了後に参加企業に対して実施したアンケートでは、「異なる業種の参加企業間で、意見交換や情報交換ができ、刺激になった」、「次年度にも、フォローアップの機会を設けていただきたい」等の意見をいただきました。

2019年3月5日（火）13:00 - 16:00

ドリーム・コア2階メッセ

小林茂教授



岐阜クリエイション工房2019

2019年9月-11月に、新しいものづくりに精通したアーティスト等を講師に招き、岐阜県内の中学生から大学生等の若者を対象とした「岐阜クリエイション工房2019」を実施しています。ワークショップを通して制作された作品は、12月にソフトピアジャパンセンタービル1階の特設会場において展示および講評を予定しています。

－ワークショップ1 Furniture in Kiosk -家具／空間を感覚的に検討するワークショップ

内容：電子工作やデジタルアプリケーション技術を活用した新しいデザインの方法・形式を模索している「LAP」のメンバーとともに、寸法（＝数字）を意識しない「感覚的な検討」をもとに家具をデザインし、同時にそれらをレイアウトした空間のデザインも行います。

学べること：既存概念にとらわれない、政策プロセスから再考する新しいものづくり

講師：富田太基氏 LAPメンバー、(株)TAB デザイナー

金原佑樹氏 LAPメンバー、softdevice inc. デザイナー

* LAP 専門分野の異なるメンバーが、それぞれの分野を組み合わせでデザインの新しい方法・形を提案、実践していくグループ

日程：2019年9月 - 11月（全6回）

会場：ドリーム・コア 研修室（岐阜県大垣市今宿6丁目52-16）

参加人数：9人（3、4人からなるチームでの参加）

－ワークショップ2 日常をハックする-ブロックチェーンで考えるぼくらの未来

内容：近年話題となっている仮想通貨（暗号通貨）を支える技術「ブロックチェーン」の考え方を、ボードゲーム「TRUSTLESS LIFE」での遊びを通じて学び、自分たちの生活の中でどのように活用できるのかを考え、ゲームのプロトタイプを制作し実践します。

学べること：ブロックチェーン技術の基礎知識と実践のための方法論

講師：加藤明洋氏 ブロックチェーンが新しい社会を作る一つの可能性を持っていると考え、それを伝えるための表現としてボードゲーム「TRUSTLESS LIFE」を制作。CREATIVE HACK AWARD 2018 SONY特別賞を始め、各方面からの評価を得る。

高見安紗美氏 サウンドインスタレーションを専門に、インタラクティブアート、キネティックアート等様々な作品制作に携わる。

日程：2019年9月 - 11月（全6回）

会場：ドリーム・コア 研修室（岐阜県大垣市今宿6丁目52-16）

参加人数：14人（3、4人からなるチームでの参加）

－作品展示・講評

作品展示：2019年12月5日（木）－8日（日）

講評（トークイベント）：2019年12月7日

* 講師による作品講評、講師およびIAMAS教授によるトークイベント

会場：ソフトピアジャパンセンタービル 1階 ふれあい広場

総合ディレクター//小林茂教授



IAMAS イベント

- 毎年、修了研究発表会・プロジェクト研究発表会を開催し、成果の発表を行っています。
- 隔年で岐阜おおがきビエンナーレおよびOgaki Mini Maker Faireを開催し、新しいアートやものづくりに関する発信を行っています。

IAMAS2019 第17期生修了研究発表会・プロジェクト研究発表会[修了展] Graduation and Project Research Exhibition

学生が、IAMAS2019の「場違いの場所で」をテーマに ゲストを招いたトークイベントやライブ、学生有志によるパフォーマンスなどを企画し、修士課程の2年間で研究・制作したメディアアートやデザイン、音楽など「芸術と科学」を融合したユニークな作品の数々を展示・発表しました。また、研究領域を横断して取り組む本学のプロジェクト研究における成果を紹介したほか、トークイベント、音楽イベントなどIAMASならではの多彩なイベントを実施しました。

2019年2月21日(木) - 24日(日) 10:00 - 18:00
ソフピアアジア・センタービル (3F ソピアホール) ほか

- Program

- 2019.02.21(木)
13:00- オープニングセレモニー
- 2019.02.22(金)
16:00- これからの創造のためのプラットフォーム「映像表現と人類学」
- 2019.02.23(土)
14:00- アートを/で考えるプロジェクト「境界とアート」
16:00- 産業文化研究センター (RCIC) 「YCAM vs IAMAS」
- 2019.02.24(日)
11:30- トークイベント「問題を引き受け、伝えること」
13:00- トークイベント「最適化が進む “明るい”未来」
14:30- トークイベント「日常から表現へ」
16:00- タイムベースドメディア・プロジェクト「ガムランコンサート」
18:00- クロージングセレモニー



モトーク//野呂祐人



Translucent Objects//平瀬未来



宇宙人、ひとり。/メリー・ゴー・ラウンド//尾焼津早織



トークイベント



メディア表現学研究プロジェクト



根尾コ・クリエイション

岐阜おおがきビエンナーレ2019 『メディア技術がもたらす公共圏』

岐阜おおがきビエンナーレ2019では、公共圏としての制作環境に注目します。ここで言う公共圏とは、誰もがアクセスすると同時に、複数の価値や意見の＜間＞に生成し、人々の間に生起する出来事への関心に基づく、差異を前提とする空間でもあります。メディア技術によって、つくり手と受け手の関係がどのように変化しうののかを問うことが、制作環境に注目する理由です。

メディア技術によって変化したアートやデザインをめぐる近年の制作環境について、つくり手と受け手の絡む公共圏／親密圏を語り合う4日間です。

2019年12月5日(木) - 12月8日(日) 11:00 - 19:00
 情報科学芸術大学院大学 ギャラリー1・2、ホールA (ソフピアジャパンセンタービル3階、4階)
 ディレクター//伊村靖子講師 (メディアアートセンター・ワーキンググループ)
 会場構成//富田太基 (2015年修了、デザイナー)
 グラフィックデザイン//井口仁長 (1999年修了、グラフィックデザイナー)

- シンポジウム

12月5日(木)15:00 - 18:00 4F ホールA
 「ソーシャル・ファブ리케이션とメディア技術」
 秋吉浩気 (建築家、VUILD(株)代表取締役)、安藤英希 (藤工芸(株)代表取締役)、堀江賢司 (株)OpenFactory 代表取締役)、赤羽享 (IAMAS准教授)
 12月6日(金) 15:00 - 18:00 4F ホールA
 「AIとの共創による新たな作家像」
 徳井直生 (慶應義塾大学SFC Computational Creativity Lab 主宰)、小林茂 (IAMAS教授)、クワクボリョウタ (IAMAS准教授)、松井茂 (IAMAS准教授)
 12月7日(土) 15:00 - 18:00 4F ホールA
 「生活の芸術化、芸術の生活化」
 藤田治彦 (大阪大学名誉教授)、鞍田崇 (哲学者)、伊村靖子 (IAMAS講師)
 12月8日(日) 15:00 - 18:00 4F ホールA
 「メディア技術がもたらす公共圏」
 村田麻里子 (関西大学社会学部教授)、立石祥子 (立命館大学衣笠総合研究機構専門研究員)、門林岳史 (関西大学文学部総合人文学科学映像文化専修准教授)、伊村靖子 (IAMAS講師)

- 展示 2019年12月5日(木) - 12月8日(日) 11:00 - 19:00 2F 応接室、3F ギャラリー1・2

Action Design Research Project <<協働的設計環境のプロトタイプング>>
 デジタルファブ리케이션機器の普及により、個人によるものづくりの可能性が開拓されました。しかしながら、従来の産業技術との併用可能性やデザイン・プロセスの更新には至っていません。本プロジェクトでは、藤工芸(株)、堀江織物(株)との協働により、制作環境や組織論の観点を含むメタな視点からデザイン・プロセス自体を捉えなおし、現時点でのデジタルファブ리케이션の可能性を考察します。
 赤羽享 (研究代表者、IAMAS准教授)、伊村靖子 (研究分担者、IAMAS講師)

Archival Archetyping Project <<AIとの共創による創造性の拡張>>

事物の空間構成をもとに、図と地の攪乱を意図して静物画を描き続けたイタリアの画家ジョルジョ・モランディ。その創造的活動の痕跡を学んだAIを「眼」として、鑑賞者自身の手で作品世界を再構築する体験型作品<<モランディの部屋>>ほか2点の研究成果を展示します。くわえて、アルゴリズムを用いた表現に関する企画・研究開発チーム「Qosmo」による体験型作品<<Neural Beatbox>>と制作環境<<MUTEK Tools>>を招待作品として展示します。
 小林茂 (研究代表者、IAMAS教授)、クワクボリョウタ (研究分担者、IAMAS准教授)、松井茂 (研究分担者、IAMAS准教授)

The Public Sphere Engendered by Media Technology

メディア技術によって変化したアートやデザインをめぐる近年の制作環境について、つくり手と受け手の絡む公共圏／親密圏を語り合う4日間です。

2019.12.5 木 — 8日
 11:00 - 19:00 (6,7日は20:00まで) 入場無料、予約不要
 11 am to 7 pm (open until 8 pm on December 6 and 7)
 IAMASギャラリー1・2、ホールA (ソフピアジャパンセンタービル3F・4F)
 IAMAS Gallery 1&2, Hall A (Sofopia Japan 3F, 4F)

岐阜おおがきビエンナーレ2019
 Gifu Ogaki Biennale 2019 www.iamas.ac.jp/biennale19

1) "Neural Beatbox" | Concept: Shiroshi Hori, Taku (Ogaki, Ise) | Research / Management: Hiroshi Yamada (Ogaki, Ise) | Design: Shiroshi Hori, Taku (Ogaki, Ise)
 2) "Lost Dark" | Concept: Yuki Saito & Hiko Yamashita
 3) "The Museum's Room" | Concept: Yuki Saito, Hiko Yamashita, Shiroshi Hori, Taku (Ogaki, Ise) | Design: Yuki Saito, Hiko Yamashita
 4) "MUTEK Tools" | Concept: Yuki Saito, Hiko Yamashita, Shiroshi Hori, Taku (Ogaki, Ise) | Design: Yuki Saito, Hiko Yamashita

IAMAS

Ogaki Mini Maker Faire 2018

Maker Faireは、「Maker」（メイカー）と呼ばれる、ものづくりの愛好家たちが全国から集い、電子工作やロボット、クラフト、電子楽器、サイエンス工作などに関する展示や発表を行い、相互に交流することで、ものづくりの楽しさを共有するイベントです。

5回目の開催となった今回は、全国から過去最多となる出展申し込みをいただき、このうちの143組が様々な展示やデモンストレーション、ワークショップを実施しました。来場者は、前回は上回る延べ7,000人にのぼり、出展者と交流したりワークショップに参加されるなど、イベントをお楽しみいただきました。

開催日：2018年12月1日(土) - 12月2日(日)

開催場所：ソフピアジャパン・センタービル

主催：Ogaki Mini Maker Faire 2018 実行委員会、共催：(株)オライリー・ジャパン

総合ディレクター//小林茂教授

具志堅裕介研究員、山田聡研究員、伊藤晶子情報支援専門職、伊澤宥依技術支援専門職

出展者 143組 (東北2組、関東33組、中部74組 (うち岐阜県31組)、関西29組、中国・九州3組、海外2組)

ワークショップ 延べ16組が実施

プレゼンテーション 24組が実施

来場者数 延べ7,000人

【関連企画】

ー IAMAS先端IT・IoT利活用啓発事業2018

IT・IoT分野の最先端で活躍するIAMAS卒業生が起業した(株)オトングラス(代表取締役 島影圭佑氏)、「MATHRAX」(アートユニット)によるワークショップに高校生などの若者が参加し、自らの発想でモノづくりに取り組みました。

「Ogaki Mini Maker Faire 2018」期間中には、ワークショップで制作した作品の展示に加えて、オトングラスの島影圭佑氏、浅野義弘氏、MATHRAXの久世祥三と坂本菜里子氏、視線と表情の表現力を追求した小型ヒューマノイドロボット「SEER」を開発した藤堂高行氏 (IAMAS卒業生) によるトークイベントも実施しました。

- 作品展示

2018年12月1日(土) - 2018年12月2日(日)

ソフピアジャパン・センタービル内

- トークイベント

2018年12月1日(土)14:30-16:30

ソフピアジャパン・センタービル1階 セミナーホール

島影圭佑

「OTON GLASS」知覚を拡張するIoTスマートグラス



Photo: KIOKU Keizo

藤堂高行

「SEER: Simulative Emotional Expression Robot」



三輪眞弘「佐治敬三賞」受賞記念 ぎふ未来音楽展2019ガラ・コンサート&シンポジウム

いま、わたしたちはどのような世界を生きているのか。音楽はどのような未来を奏でるのか。

音楽界の第一線で活躍する2名の音楽家（一柳慧「文化勲章」受章、三輪眞弘「佐治敬三賞」受賞）とともに、これからの社会と音楽とのかかわりについて深掘し、岐阜から発信する、未来志向のガラ・コンサート&シンポジウムに、三輪眞弘学長が出演しました。三輪学長は、コンサート後のシンポジウム「劇場音楽の未来を考える」にパネリストとしても登壇しました。

2019年9月14日(土)

OKBふれあい会館・サラマンカホール（岐阜県岐阜市）

14:00～ガラ・コンサート「一柳慧&三輪眞弘作品集～文化勲章・佐治敬三賞受賞を祝して」

16:00～シンポジウム「劇場音楽の未来を考える」

主催 サラマンカホール



情の時代 あいちトリエンナーレ2019

4回目となる今回は、芸術監督に津田大介氏を迎え、「情の時代」をテーマに、国際現代美術展のほか、映像プログラム、パフォーミングアーツ、音楽プログラムなど様々な表現を横断する、最先端の芸術作品が紹介されました。

国際現代美術展に卒業生の高嶺格さん（1999年修了）、パフォーミングアーツには、クワクポリョウタ准教授（劇団うりんこ+三浦基+クワクポリョウタ）が参加しました。また、ラーニングのキュレーションを卒業生の会田大也さん（2003年修了）が務めました。

2019年8月1日(木)～10月14日（月・祝）

愛知県芸術文化センター（愛知県名古屋市中区）

名古屋市美術館（愛知県名古屋市）

四間道・円頓寺（愛知県名古屋市）

豊田市美術館（愛知県豊田市） 他

劇団うりんこ+三浦基+クワクポリョウタ

『幸福はだれにくる』

サムイル・マルシャーク著「幸福はだれにくる」を地点の三浦基さんが演出を行い、クワクポリョウタ准教授がメディアアートを担当しました。

2019年8月16日19:00、17日（土）11:00/15:00、18日（日）11:00/15:00

愛知県芸術劇場小ホール（愛知県名古屋市中区）

2019年9月21日（土）14:00、22日（日）11:00

豊田市民文化会館大ホール（愛知県豊田市）



劇団うりんこ+三浦基+クワクポリョウタ『幸福はだれにくる』2019

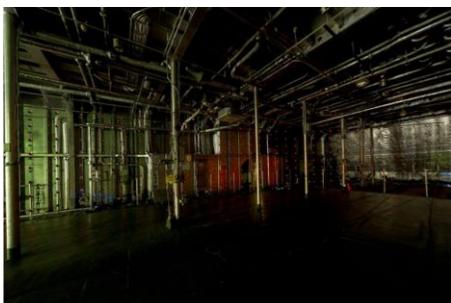
Photo: Yoshiyasu Hattori

第22回文化庁メディア芸術祭 受賞作品展

第22回文化庁メディア芸術祭にて、卒業生の古館健さん（2002年修了）の「Pulses/Grains/Phase/Moire」がアート部門大賞を受賞しました。またアート部門では、卒業生の菅野創さん（2009年修了）の「Lasermice」と、真鍋大度さん（2004年修了）・石橋素さん（2001年修了）らの「discrete figure」が優秀賞を受賞しました。エンターテインメント部門では、真鍋大度さん・石橋素さんらの「Perfumu×Technology presents “Reframe”」が優秀賞を受賞しました。

また、6月1日(土)、2日(日)の関連イベントに、1日には受賞者の古館さん、石橋素さん、菅野創さんが、また両日モデレーターとして本学の伊村靖子講師が出演しました。

2019年6月1日(土)- 6月16日(日)
日本科学未来館（東京都江東区青海）



Pulses/Grains/Phase/Moiré | サウンドインスタレーション | 古館 健
© Kouji Nishikawa



discrete figures | ダンスインスタレーション | 真鍋 大度/石橋 素/MIKIKO/ELEVELPLAY
© Rhizomatiks / ELEVELPLAY



DIALOG#02

-日本とドイツのメディア・アート

ドイツ南部のオーバーマルヒタルのギャラリー-Atelier im Petrushhofにて、赤松正行教授とドイツ人メディア・アーティスト Wolf Nkole Helzle氏との二人展が開催されました。この展示は、2019年3月に京都、姫路、桜井で開催した「EYE SEE YOU」展の続編にあたります。

2019年6月14日(金)- 6月30日(日)
オーバーマルヒタル（ドイツ）



アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム

汗かくメディア2019 受賞作品公開展示

愛知県児童総合センターで、「アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム 汗かくメディア2019 受賞作品公開展示」が開催されました。この展示に、柴田英徳さん（修士2年）、RCIC研究員 野呂祐人さん（2019年修了）と工藤恵美さん（修士2年）のアートワークショップユニット「コココ」が出品しました。

ささてハウス/SHIBATA Hidenori
モトク・シリーズ/コココ

2019年10月12日(土) - 10月27日(日)
愛知県児童総合センター（愛知県長久手市）



AFAF Awards 2019

新人作家公募展「AFAF Awards 2019」で卒業生の平瀬ミキさん（2019年修了）の作品《Translucent Objects》が入選しました

2019年9月5日(木) - 9月10日(火)
福岡アジア美術館 交流ギャラリー（福岡県福岡市博多区）



運 営

- IAMASの運営に関する予算は以下のとおりとなっており、歳入の約8割は岐阜県予算から措置されています。

(千円)

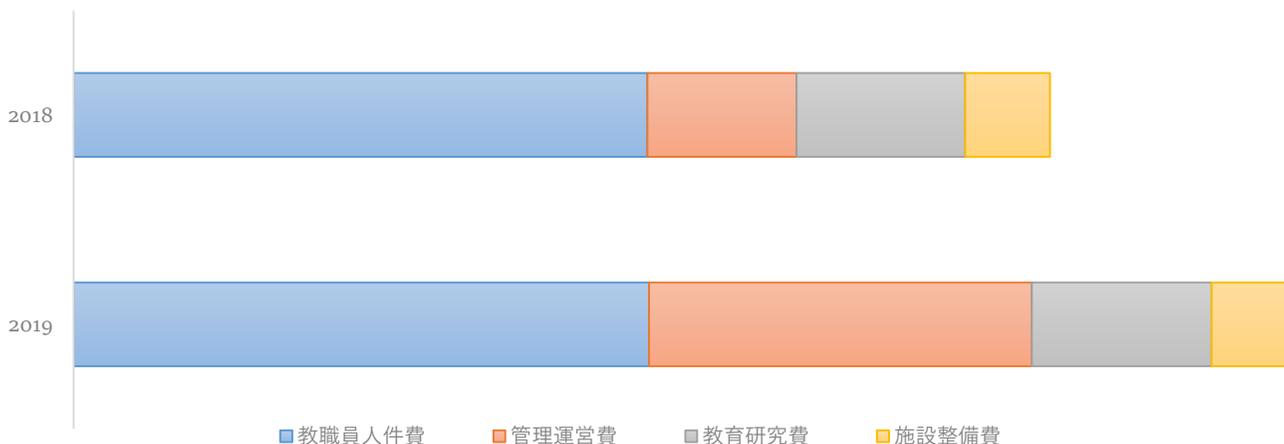
－ 歳入の部

	2019	2018
県費〔一般財源〕	439,109	426,374
地方交付税	28,582	28,582
入学金・授業料	32,106	31,570
その他手数料等	11,371	11,381
国庫補助金等	10,000	10,000
共同・受託研究等	14,800	15,137
科研費等	9,321	5,263
その他収入	165	164
県債〔一般単独事業費〕	117,400	0
合 計	662,854	528,471



－ 歳出の部

	2019	2018
教職員人件費	311,500	310,597
管理運営費	207,209	80,805
教育研究費	97,283	91,162
施設整備費	46,862	45,907
合計	662,854	528,471



[主な用途]

管理運営費：校舎維持、非常勤講師、広報、入学試験
 学生寮外壁等修繕工事費
 教育研究費：PJ研究、教員研究、特別給付生
 施設整備費：校内システム設備整備、図書館運営

(単位:千円)

一 授業料、入学料その他の費用

- 入学前に必要な費用

入学金
 県内の者:226,000円
 県外の者:338,000円

- 在学時に必要な費用

授業料
 年額 535,800円
 前期 04月30日までに納付
 後期 10月31日までに納付

- 入寮者のみ

寮費 22,800円/月
 共益費 35,000円/年 (前納)

- 授業料減免に関する情報

学業に精励し、人物健全な者で、次の各号のいずれかに該当する場合、授業料の減免または 納入期限の延長が認められる場合があります。

1. 生活保護法第6条第1項に規定する被保護者の世帯に属する者
2. 長期疾病、生業の不振又は失業のため、その生計が著しく不良となり、前号の被保護者に準ずる程度に困窮していると認められる世帯に属する者
3. 天災その他の災害により著しく損害を受け、学資の支弁が困難な世帯に属する者
4. 知事が別に定める基準により情報科学芸術大学院大学特別給費生として認めた者
5. その他知事が特に減免等の必要があると認めた者

一 運営事業費(当初予算額)の推移(人件費を除く)



※令和元年度は、管理運営費に学生寮外壁等修繕工事費を含む

一 情報科学芸術大学院大学に対する大学評価(認証評価)結果

情報科学芸術大学院大学は、公益財団法人大学基準協会による2014年度大学評価(認証評価)の結果、同協会の定める大学基準に適合していると認定されました。

認定期間:2015年4月1日 - 2022年3月31日

一 中期目標及び中期計画

情報科学芸術大学院大学中期目標及び中期計画を策定し、IAMAS WEBに掲載しています。(独立行政法人化されていない大学の策定は任意)

計画期間:2018年4月1日 - 2024年3月31日



共同研究 受託研究

- 共同研究の件数はほぼ横ばいで推移しています。

- ※ 共同研究 : 必ずしも研究資金の授受を問わず、人材交流や技術・施設の共用による研究であり、契約を締結したもの
- ※ 受託研究 : 官公庁、自治体や民間企業などから受託して行う研究

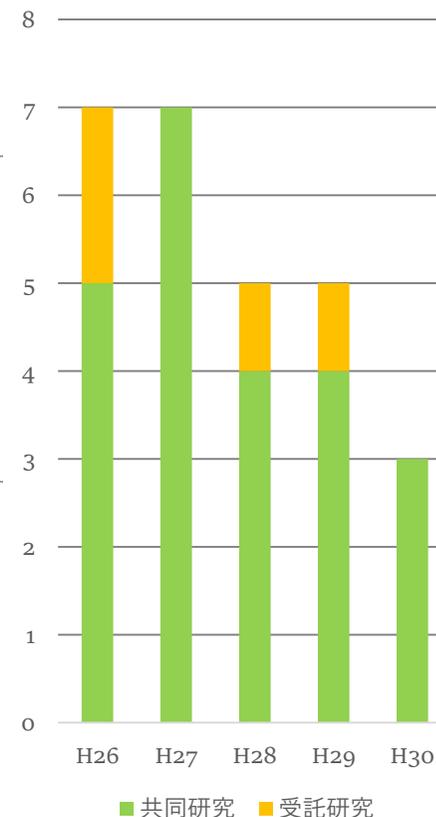
- 共同・受託研究

- 2018年度
(平成30年度)
- 大広《鈴木宣也教授、金山智子教授》
テーマ:広告クリエイターによるものづくりアイデアエーション
 - 長良川鉄道《平林真実教授、金山智子教授》
テーマ:長良川チャギントン人形列車
 - 稲葉商店《金山智子教授、瀬川晃准教授、山田聡研究員》
テーマ:複合的な文脈から体験する食のデザイン研究

- 2017年度
(平成29年度)
- 凸版印刷 **【受託研究】**《松井准教授、伊村靖子講師》
テーマ:メディア芸術所蔵情報の調査 ※「文化庁メディア芸術所蔵情報等整備事業」のメディアアート分野をIAMASにて実施
 - 電通《小林茂教授》
テーマ:デジタルテクノロジーを使った地域社会の課題解決
 - ソニー《鈴木宣也教授、赤羽亨准教授》
衣食住ネットワークプロジェクト
 - Rock' n Pool、ミホロ《金山智子教授、平林真実教授、古澤龍(元)研究員》
POOL JAM EXPO 2017 におけるPoolの新たな価値を創出するためのLED演出の研究
 - 十六銀行《小林茂教授》
既存サービスのIT化に関する研究

- 2016年度
(平成28年度)
- パナソニック《鈴木宣也教授、赤羽亨准教授》
テーマ:「防災」～災害時の安心安全の提供 ※あしたをプロトタイプングするプロジェクト（授業）の活動として実施
 - アイシン精機《鈴木宣也教授、赤羽亨准教授》
テーマ:新規事業創出のための新アイデア、技術創出 ※あしたをプロトタイプングするプロジェクト（授業）の活動として実施
 - 電通《小林茂教授》
テーマ:デジタルテクノロジーを使った地域社会の課題解決 ※修了生ベンチャー企業(株)Gocco.と連携して実施
 - 凸版印刷 **【受託研究】**《松井准教授、伊村靖子講師》
テーマ:メディア芸術所蔵情報の調査 ※文化庁委託事業の一部分をIAMASにて実施
 - グレイセル、TAB《金山智子教授、小林孝浩教授、James Gibson准教授》
テーマ:根尾地区における共創手法を通じた地域再生の研究 ※根尾コ・クリエイション（プロジェクト）（授業）の活動として実施

- 共同・受託研究件数



- 2018年度の共同研究活動紹介

株式会社大広との共同研究

- テーマ「広告クリエイターによるものづくりアイデアーション」

ネット時代となり、広告業界も過渡期を迎えています。クライアントの要望に合わせて広告を作りうるだけでは生き残れません。マーケティング力にもものづくり力を掛け合わせることで、これまでにないもの、あるいは広告を作る可能性を見出す大手広告会社も現れています。本研究では、ものづくりの得意なIAMASとの協働を通して、広告クリエイターたちがプロダクトデザインの発想を身につけ、広告業界におけるものづくりの可能性を自ら見出していくことを目的としています。また、IAMASは、コンセプトやビジョンの創造の得意な広告クリエイターとの協働作業から広告的な手法を学ぶことも目的としています。

今回の共同研究では、フィールドワークとアイデアスケッチという二つの大きなプロセスを通して、課題を自ら発見し、それに対するアイデアの創出を体験することを実施しました。大阪南西部という地域を対象としたフィールドワークでは、大阪に勤務する大広メンバーにとっても新しい発見があり、アイデアスケッチでは、時間をかけてアイデアを繰り返しブラッシュアップしていくことで、慣習化されたアイデア創出に対する自らの反省や気づきがありました。特にクライアントに対するアイデアを提案することを業務とする広告代理店のスタッフと、アイデアの創出を学ぶ本学学生との共創的な作業は、多くの新しいアイデアの創出という良い成果につながりました。また、今回、創出されたアイデアを実際に実践することを求める声も高く、実践を前提とした共同研究として2019年度に継続されることとなりました。

2019年1月7日(月) - 2019年3月31日(日)

鈴木宣也教授、金山智子教授



出版 広報

- IAMASの研究や各種の活動について認知や関心を高めるための広報活動を行っています。
- 教員による研究や活動を掲載する「紀要」や、プロジェクト成果を纏めた冊子など、IAMASの研究活動の記録も行います。

情報科学芸術大学院大学紀要

Journal of Institute of Advanced Media Arts and Sciences

第10巻 2018年
[特集]

- メディア表現学を考える 研究手法の現在
基調講演：わたしのメディア表現学宣言 機械とわたしの未来
三輪真弘
シンポジウム：メディア表現学を考える 研究手法の現在
登壇者：渡部葉子、北野圭介、佐藤知久、飯田豊、三輪真弘
モデレーター：松井茂
- 岐阜イノベーション工房2018
研究ノート：岐阜イノベーション工房2018 小林茂
基調講演：テクノロジーの「辺境」(フロンティア) 小林茂



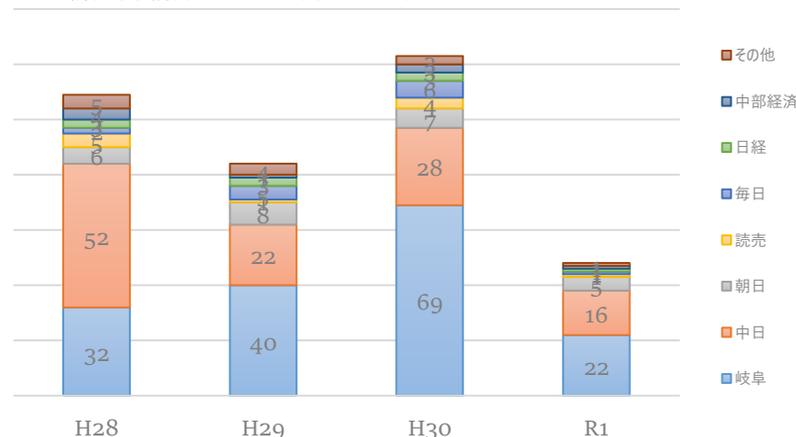
[研究ノート]

- 《養老天命反転AR》：作品データベースの活用とAR開発のためのプラットフォーム
- アート・チクルス現代音楽同人会の活動
- 四方幸子インタビュー：アーティストとエンジニアのコラボレーションキャンノン・アートラボ（1991～2001）を振り返る

[評論]

- 落語の身体論（8）『牡丹燈籠』、あるいは圓朝という身体【承前】

新聞掲載件数 ※R1年度は10月末まで



©NHK (Japan Broadcasting Corporation)

NHK Eテレ「デザイントークス+」#68デザインハンティングin岐阜において、IAMASが紹介されました。
(2019年1月15日・16日放送)
* NHK WORLD 2018年1月25日放送の日本語版)

雑誌掲載 ※R元.10現在



西濃地域の生活情報誌『咲楽（8月号）』で、伏田昌弘さん（修士2年）の作品が紹介されました。

大垣市City版
咲楽NET® 2019年8月号



デザインのある生活と社会の実現 デザイン誌『AXIS(10月号)』で、「問いから社会実装を目指す、OTON GLASSとCuBoard」として、(株)オトングラス 代表取締役 鳥影圭佑さん(2016年修了)の記事が掲載されました。

デザイン誌「AXIS」
2019年10月号



『美術手帖（6月号）』の第2特集「平成の日本美術史30年総覧」を松井茂准教授が監修しました。また、「榎木野衣の時代：30年間の批判理論」を松井茂准教授が、「多様化するメディア環境」を伊村靖子講師が執筆を担当しました。

「美術手帖」
2019年6月号

『美術手帖（2月号）』特集「みんなの美術教育 美術教育史年表の中で、IAMASが紹介されました。」



「美術手帖」
2019年2月号

第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展

日本館代表作家（5人）の1人に、IAMAS卒業生の安野太郎さん選出

ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館代表作家の一人に安野太郎さん〔作曲家〕（2004年修了）が選出され、日本館において展示されました。

－ 第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の概要

ヴェネチア・ビエンナーレ財団がヴェネチア市内各所を会場に開催する芸術の祭典。1895年に最初の美術展が開かれて以来120年以上の歴史を刻んでいる。

現在では、美術展、建築展、音楽祭、映画祭、演劇祭などの独立部門があり、中でも美術展は、世界の現代美術の動向を俯瞰できる場として、また国別参加方式を採る数少ない国際展として注目を集めている。

会期：2019年5月11日(土) - 2019年11月24日(日)

会場：ジャルデーニ地区、アルセナーレ地区 等

－ 同美術展日本館の概要

服部浩之氏がキュレーターを務め、「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」と題し、異なる専門分野で活躍する4名のアーティストによる作品展示が行われた。

タイトル：Cosmo-Eggs | 宇宙の卵

安野太郎（作曲家）

下道基行（美術家）

能作文徳（建築家、東京電機大学准教授）

石倉敏明（人類学者、秋田公立美術大学准教授）

キュレーター：服部浩之（秋田公立美術大学大学院准教授）



展示風景 映像<Tsunami Boulder> // 下道基行、バルーンとリコーダーの様子 // 安野太郎

－ IAMAS Showcase

ソフトピアジャパン・センタービル1階において、IAMASの研究活動の広報を行っています。オープンハウスや修了制作展などのお知らせのほか、教員や学生、修了生の作品展示などを行っています。

2019年8月1日(木) - 2019年9月30日(月)
7:00 - 21:00

移動体芸術プロジェクト、クリティカル・サイクリング有志

「移動する作品展」



移動する作品展 // 移動体芸術プロジェクト、クリティカル・サイクリング

学 生 支 援

- IAMASの学生は、多様な専門分野、様々な地域から入学があるため、進路についても多様な要望に対応する形で支援しています。
- 学生の皆さんが、研究や制作活動に打ち込めるよう生活についての支援も行っています。

- キャリアセミナー

学生が進路を検討するために必要な支援を行っています。

- 第1回キャリアセミナー 2019年4月11日(木) 9:00 - 12:05
テーマ：OB/OGの紹介
(平林真実教授、山田晃嗣准教授)

- 第2回キャリアセミナー 2019年5月13日(月) 13:20 - 16:25
テーマ：「クリエイターのための法律と会計」
- 倉崎伸一朗氏
シティライツ法律事務所 弁護士
- 山内真理氏
Yamauchi Accounting Office代表 公認会計士・税理士

- 第3回キャリアセミナー 2019年9月30日(月) 13:20 - 16:00
在学生が進路を考える際に参考となるよう、身近な本学修了生からの声を聴く機会を提供しています。

- 岡村綾子氏 (2012年修了)
Ablenton認定トレーナー
- 植松頌太氏 (2013年修了)
静岡産業大学情報学部情報デザイン学科 助教

- キャリアカウンセリング

学生一人一人に対し、担当教員が進路について面談を行っています。

- 国際交流員

海外出身の教員や交換留学生のサポート、IAMAS研究成果の海外発信などのため、自治体国際化協会(クリア)「語学指導等を行う外国青年招致事業(JETプログラム)」を活用し、国際交流員(Coordinator for International Relations [CIR])を受け入れています。
学生の研究活動にも大きな支援となります。

- 交換留学制度

IAMASでは、海外の教育機関との学生交流事業を実施しています。
このプログラムは、学生に海外で豊かな経験を積んでもらうもので、毎年2名が提携校に1~3か月留学するとともに、提携校の学生がIAMASに滞在し、互いに交流を深めます。
現在の提携校：リンツ美術工芸大学(オーストリア)



- 学生寮 [RIST]

学生寮 [RIST] は、IAMASから約1.3Kmの住宅街に位置し、ユニットバス、ベッド、電気調理器具など快適さと機能性を備えた生活空間となっています。また、学生が利用しやすい寮費としています。(オール電化のためガス調理器具・暖房は使用できません。)

大垣市藤江町1丁目1-7
全40室(洋間)



- 仮眠室

夜間の帰宅困難時はセンタービル2階に、仮眠を取ることができる和室があります。研究活動で疲れた身体を癒します。

- 保健室

月曜日から金曜日(休日を除く)の午前9時~午後3時45分の間はセンタービル3階の保健室に常備薬を置き、怪我の応急処置に看護師が対応します。健康に関すること、毎日の暮らしに関すること、精神面のことなどの相談に対応するほか、気分の優れないときには休養室で横になって休むことができる場所となっています。

- カウンセリングルーム

月に4~5回(火曜日または金曜日:12時30分~16時30分)、センタービル3階保健室2では、随時カウンセリングを行っています。臨床心理士の2名のカウンセラーが交代で対応します。

- シャワールーム

ドリームコア6Fにあるシャワールームを利用することができます。

入 試

- 入学生の獲得に向けて、毎年、進学相談会を実施するとともに、夏にはオープンハウスを開催しています。
- また、入試に関する相談や学校見学は随時受け付けしています。
- 芸術系や情報系の他の大学教員に向けて、本学教員からの依頼状を添えて募集要項を送付し、入学生の獲得に取り組んでいます。

IAMAS OPEN HOUSE 2019

2019年7月27日(土)-28日(日)の2日間、IAMAS OPEN HOUSE 2019を開催しました。

進学説明会や進学相談会を始め、「全教員が語る」というIAMASの全教員が二日間にわたりリレー形式で各教員の近年の研究活動についてプレゼンテーションする企画や、教員と学生によるプロジェクト研究の成果を、作品展示、体験するなど、様々な実施しました。

学生の有志メンバーがいくつかの企画を実施し、ネットラジオの公開収録をしたり、“ちよいみせキッチン”（カフェ）では、カレーや大垣名物の水まんじゅうの販売をしました。

2019年7月27日(土) -28日(日)10:00 - 17:00
WorkShop24、ソフピアジャパン・センタービル



進学相談会

1.進学説明会

本学教育課程の2年間の主な流れと研究活動について紹介し、入試日程や入試方法、出願手続きなどについて説明しています。

2.個別相談会

本学教員と面談して、作品制作、研究の進め方やIAMASの学校生活などについて相談を受けています。

2019年5月12日(日) 14:00 - 16:15, 17:00 - 19:15 (2回開催)
NATULUCK日本橋 (東京都中央区日本橋小舟町4-1伊場仙ビル7F)

2019年5月26日(日) 13:30 - 15:45
ベースキャンパ名古屋 (愛知県名古屋市中村区名駅3-18-5モンマートビル5F)

2019年7月13日 (土) 14:00 - 16:15, 17:00 - 19:15 (2回開催)
NATULUCK日本橋 (東京都中央区日本橋小舟町4-1伊場仙ビル7F)

2019年11月23日(土) 14:00 - 16:15, 17:00 - 19:15 (2回開催)
NATULUCK日本橋 (東京都中央区日本橋小舟町4-1伊場仙ビル7F)



